

R3年10月5日(火)

テーマ：新人ナースのためのフィジカルアセスメント
～事例から学ぶフィジカルアセスメント～

講師：久保 和子先生 新宮市立医療センター
救急看護認定看護師

場所：看護研修センター+Web参加

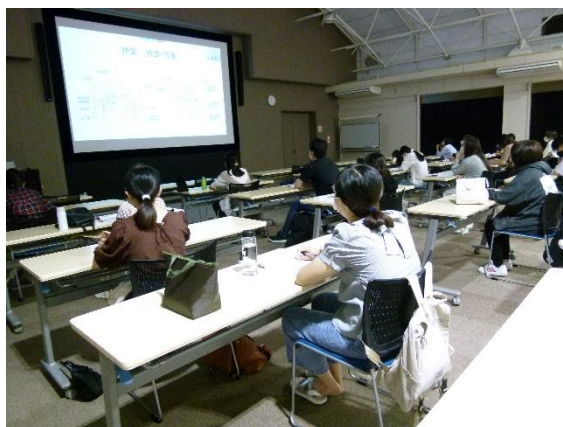
参加者：117名(うちWeb参加者96名)

ねらい：フィジカルアセスメントのための基本的技術を習得し、看護実践に活用できる。
事例検討をすることにより、自己の観察方法を振り返り、フィジカルアセスメントについて正しく理解できる。



フィジカルアセスメントを実施するための基本的知識から、バイタルサイン測定や身体所見の取り方まで丁寧に講義があった。触診では、手のどこが感覚に敏感か、温冷覚はどの部分がより感じるかなどを理解することで、観察も変わってくることも話されていた。

講義中のワークでは、入院中の患者の事例検討があり、状態を判断するための知識、必要な観察項目など具体的でより実践に即した講義があった。



会場参加、Web参加ともに多数の受講者の参加があり、フィジカルアセスメントの学習へのニーズが高いことを改めて認識した。受講者からは「内容がわかりやすく理解できました。」「患者さんをアセスメントする上で必要な知識をたくさん学ぶことができました。」との意見があり、明日からの看護につなげていける有意義な研修となった。

R3年10月11日(月)

テーマ：現場で活かせるスキンケア

講師：関 晃平先生 和歌山県立医科大学附属病院
皮膚・排泄ケア認定看護師

場所：看護研修センター

参加者：64名

ねらい：褥瘡管理に関する基本的知識について学ぶ。

スキンケア、医療関連機器圧迫損傷(MDRPU)、失禁関連皮膚炎(IAD)の特徴と対策について学ぶ。



褥瘡に関する基本的な知識、DESIGN-R 評価の実際、薬剤やドレッシング材の選択の方法などの講義があった。褥瘡の写真を見て、実際に評価したり、適切なドレッシングを検討したり、参加者とやり取りをしながらの講義であった。

午後からは、業者による最新の医療材料や剥離剤の説明・展示の時間があり、実際に手に取って見る機会もあった。非常に実践的で学びの多い研修であった。



基本的な知識に加え、これだけは！というポイントを強調した講義だったので、非常にわかりやすい研修だった。研修後のアンケートにも「わかりやすかった。」「疑問に思っていたことが解決でき、明日から活かします。」と回答があった。

研修番号【47】

研修会名「 チーム STEPPS 」

開催日 令和3年10月15日（金）

講師 関西医科大学医療安全管理センター
理事長特命教授 宮崎 浩彰 先生

場所 看護研修センター（大ホール）

参加者 36名

ねらい：チーム STEPPS について学ぶ。



今回の医療安全の研修会では医療安全とは何か、チーム STEPPS の基本原理や考え方を学び、さらにグループワークで演習や事例を用いて協働するための具体的な行動を考え、内容を共有し振り返りを行いました。事例検討では、うまくいかなかった事例についてグループ討議を行い、その情報を全体で共有したあとにうまくいった事例の要因について話し合いを深めました。効果的なコミュニケーションを使い、ポジティブな体験の共有を図ることが明確な目標に向かってチーム力を向上させることを今回のグループワークの中で体験できました。チームのパフォーマンスを最大限に活用するための根拠に基づいた枠組みを知ることができた研修でした。

R3年10月26日(火)

テーマ：急変を見逃さないフィジカルアセスメント(応用編)

講師：池田 景子先生 橋本市民病院
救急看護認定看護師

場所：看護研修センター+Web参加

参加者：54名(内Web参加者25名)

ねらい：急変を予測するための視点や急変時における緊急度、重症度から今何をするべきか判断することができる能力を習得する。

急変時に優先順位をつけて行動できるようにリーダーシップが発揮できる。



臨床推論がどのような方法で、看護実践で活用するにはどうすればよいかについて、具体的な例を挙げながらの説明があった。思考のプロセスには種類があり、フィジカルアセスメントにどうつなげていくかがよくわかる内容であった。



事例検討では、近くに着席している受講者とグループワークを行い、臨床推論による仮説形成→判断を看護につなげていくことを学んだ。



講義内容は臨床推論の話が多かったが、急変を見逃さないために、臨床推論が重要だと感じた研修であった。受講者は、普段何気なく行っている観察や判断・ケアは、しっかりと根拠に基づいたものだと再認識できた研修となったのではないかと感じた。

R3年10月31日(日)

テーマ：ケアの質を高める看護倫理

～皆で考えよう！日常のケア場面における倫理問題～

講師：ウィリアムソン彰子先生 神戸大学医学部附属病院
副看護部長

場所：看護研修センター

参加者：40名

ねらい：自らの行動を律する職業倫理規定を有することは専門職の1つの条件であり、日本看護協会が示す「看護者の倫理綱領」もとに、基本的な看護倫理について学ぶ。
多くの複雑かつ困難な倫理的問題に対し、適切な倫理的判断が行えるよう事例を用いて学びを深め、実践で活用することができる。



講義では、倫理綱領やナイチンゲール誓詞の内容も含めながら、倫理についての話があった。

グループワークでは、身の回りの倫理にまつわる事例をグループで共有し、活発な意見交換が行われていた。



看護倫理は難しいから、悩むことが多いから…と参加された受講者も多かった。グループワークでは、受講者から笑い声や楽しそうな雰囲気を感じられた。アンケートでは「看護実践の中で悩んでいたことの解決の糸口がみつかりました。」「今後の看護に活かせる」との意見があった。